

安曇野市穂高交流学習センター「みらい」オオカミ展

オオカミがいない生態系では今？

特別展示：キルギスのオオカミの保全



2022年5月12日(木)～5月15日(日)

【開場】10:00～17:00

【会場】安曇野市穂高交流学習センター「みらい」
展示ギャラリー
長野県安曇野市穂高 6765 番地 2

入場料
無料

◎展示内容

1. 日本でオオカミが姿を消した理由・歴史的背景
2. オオカミがいないことによる生態系のひずみ・自然破壊
3. オオカミの復活保護が盛んな欧米社会
4. オオカミはシカ、イノシシ、サル、外来哺乳類をコントロールし、農林業被害を軽減
5. オオカミは山地災害から国土を守り生態系・生物多様性を回復
6. オオカミはシカやイノシシによる交通事故から人々を守る
7. 放牧家畜（羊・牛・馬）が行われていない日本ではオオカミによる家畜被害は発生しない
8. 臆病なオオカミは人を襲わず、人々と共生可能

主催：一般社団法人 日本オオカミ協会

協力：一般財団法人 中村浩志国際鳥類研究所、信州大学農学部動物生態学研究室

後援：安曇野市、信濃毎日新聞社、市民タイムス

オオカミを絶滅させてしまった日本では数十年前から全国的にシカ、イノシシ、サル、外来種のキョン、アライグマ、ヌートリアなどが増加し、自然・社会に対して深刻な獣害問題を発生させています。この理由として、温暖化、狩猟の衰退、人口減少、中山間地社会の農林業の衰退などが指摘されています。

これに対して、自然保全、防災、農林業など被害防止技術の開発普及、狩猟・駆除の強化、ジビエ普及、立法措置、これらのための年々増加する莫大な財政支出など、様々な獣害対策がとられてきました。しかし期待したような結果は得られていません。

何か重大なことが忘れられています。それは天敵オオカミの大切さと復活に関することです。これに触れることを躊躇っていたかのような印象があります。今や欧米ではオオカミやカワウソ、ビーバーなどの絶滅動物の復活時代。日本でもトキやコウノトリのような鳥類だけでなく、野生獣類の復活再生に取り組みなければならない時代になったのです。目先の益害（ましてや誤解による）にこだわっている時代は終わりました。天敵オオカミ復活に取り組み、生態系を守りましょう。

今回のオオカミ展では、日本でのオオカミの絶滅に関する問題をいろいろな視点から紹介し、オオカミに関する誤解・偏見を正し、オオカミの復活実現にとって必要な様々な情報を提供します。



◆特別展示：キルギスのオオカミの保全

信州大学山岳科学研究拠点教授、泉山茂之氏が中央アジアのキルギスにおいて、捕獲したオオカミにGPSを取りつけ群れの行動や生息範囲を調査した様子など展示します。



キルギスのオオカミ：GPS テレメトリによる調査個体（写真：泉山茂之氏）

◆ライチョウとオオカミ

高山帯のシンボル、ライチョウは温暖化と開発で存続が心配されています。シカやイノシシ、キツネ、テン、ニホンザルなどの従来は珍しかった動物が高山帯にまで姿を現し、植生破壊や捕食によってライチョウを脅かしています。どうしたらよいか。ライチョウとオオカミの関係は？ライチョウについての展示も用意しました。

私たちのよりよい未来に向けて、自然、そしてワイルドライフとの良い関係を実現するために。



会場アクセス

穂高交流学習センター「みらい」

〒399-8303 長野県安曇野市穂高 6765-2

JR 大糸線 穂高駅から徒歩約 15 分 ※駐車場あり

<https://www.city.azumino.nagano.jp/site/mirai/32303.html>

一般社団法人 日本オオカミ協会

〒415-0531 静岡県賀茂郡南伊豆町伊浜 2687-56

TEL & FAX: 0558-64-8800

wangshang0309@gmail.com

<http://www.japan-wolf.org/>

